

近現代に残るニホンオオカミの痕跡

ニホンオオカミは、明治38(1905)年1月23日、奈良県吉野郡東吉野村鷺家口で捕獲されたのを最後にその消息が途絶え、絶滅したものとされています。その後も奥秩父その他各地で目撃情報がありますが、確かなものではなく、おそらくはこの前後に本当に絶滅してしまっているものと思われます。

ニホンオオカミ *Canis lupus hodophylax* は、タイリクオオカミ *Canis lupus lupus* の亜種で、オオカミの中では最も小型のオオカミとされています。北海道には、エゾオオカミ *Canis lupus hattai* という別の亜種がいましたが、これも本州以南と相前後して絶滅しました。エゾオオカミは、牧畜に有害とされ、人間によって退治されました。本州以南にいたニホンオオカミの絶滅理由ははっきりしません。地域によっても異なります。おそらく、いろいろな要因～人為的なもの、狂犬病等～が組み合わさってのことだったのでしょうか。

ニホンオオカミは絶滅してしまっても、日本各地の山々を駆け巡った狼の痕跡は、各地、諸方に残っています。明治以降の日本(現代も含めて)に残るニホンオオカミの痕跡を探して、主に郵便史料に残るニホンオオカミの足痕を集めてみました。

目次

p.	痕跡の種別	リーフ名
2	狼の絶滅	ニホンオオカミの絶滅 明治38年
3	//	//
4	信仰(神社)	今も残るオオカミ信仰
5	//	三峯神社 (埼玉県秩父市)
6	//	三峯神社社務所差立 御神ノ札在中
7	//	宝登山神社 (埼玉県秩父郡長瀬町)
8	//	武藏御嶽神社 大口眞神 (東京都青梅市)
9	//	山津見神社 狼の天井絵 (福島県飯舘村)
10	伝説	三朝温泉「白狼伝説」 (鳥取県) 駒ヶ根「早太郎」伝説 (長野県/静岡県)
11	//	磐田市・駒ヶ根市 友好都市50周年記念 (悉平太郎)
12	姓	名前に残るオオカミ 「狼」姓
13	地名	地名に残るオオカミ 「大菩薩峠 狼平」
14	//	地名に残るオオカミ 「狼河原郵便局」
15	日本犬	オオカミのDNA? 川上犬 (長野県南佐久郡)
16	//	オオカミのDNA? 甲斐犬 (山梨県南アルプス市等)

参考文献

- ◎『東吉野村とニホンオオカミ』 シューキヤマモト文とイラスト 東吉野村教育委員会 2020 18p 26cm
- ◎『神になったオオカミ 秩父山地のオオカミとお犬様信仰』 埼玉県立自然の博物館編 埼玉県立川の博物館 2017 42p 30cm
- ◎『まぼろしのニホンオオカミ 福島県の生息記録』 藤原仁著 歴史春秋社 1994 235p 20cm
- ◎『狼 その生態と歴史』 平岩米吉著 築地書館 1992 308p 22cm
- ◎『オオカミとその仲間たち—イヌ科動物の世界—』 神奈川県立生命の星・地球博物館 1998 96p 30cm

近現代に残るニホンオオカミの痕跡

ニホンオオカミの絶滅 明治38年



「20世紀デザイン切手シリーズ第2集」11.9.22発行 ニホンオオカミ絶滅

ロンドン動物学会と大英博物館が企画した東亜動物学探検隊として明治37年7月来日したアメリカ人マルコム・アンダーソン（当時25歳）は通訳兼助手の金井清（一高学生；帝大卒後満鉄勤務、長野県諏訪市長、世界貿易センター理事など）と共に東吉野村鷺家口で38年1月23日ニホンオオカミを入手した。

23日の朝、採集したネズミをはく製にしていたら、3人の猟師が1頭のニホンオオカミの死骸をもってやってきました。この時、猟師は十数円を要求しましたが、金井氏は8円50銭を主張しました。日当たりのよい宿屋の縁側で、長い間交渉しましたが、ついにまとまらず、猟師たちはオオカミをかついで立ち去ってしまいました。

「この時のアンダーソンの失望は言語に絶するものだった。元来無口のアンダーソンが、買えばよかった、再び手に入らないかもしれないと独り言をいいながら片足を立てて縁側に腰かけた顔は今日も。ありありと残っている。」と金井氏は当時の模様を記しています。ところが金井氏の期待にたがわず、猟師たちはやがて引き返ってきて8円50銭で折り合い、オオカミは売り渡されました。

「これが、日本で捕獲された最期のニホンオオカミになろうとは、当時も想像も及ばないことがある。アンダーソンと共に、鋭利なナイフで皮をはいでいる間、3人の猟師は煙草を吸いながら眺めていた。腹がやや青みを帯びて腐敗しかけているところからみて、数日前に捕れたものらしい。」と金井氏は記しています。

このニホンオオカミは、若い雄で、現在、ロンドン自然史博物館に、頭骨と毛皮が保存されています。その大きさは、頭と胴91.4cm、尾34.0cm、耳8.6cmと記録されています。

（『ニホンオオカミの像』p3~4（東吉野村教育委員会 1987刊）より引用

近現代に残るニホンオオカミの痕跡

ニホンオオカミの絶滅

ニホンオオカミの像



奈良県吉野郡東吉野村

ÔKAMI

Japanese Wolf



▲大和 鷺家口

鷺家口(わしかぐち)郵便局：
明治 44 (1911) 2.21
「小川」郵便局と改称

◀「ニホンオオカミの像」

(在 東吉野村小川(旧鷺家口))
銅像は、1987年建立。奈良
教育大学久保田忠和教授制
作。パンフレットは、奈良県
吉野郡東吉野村教育委員会
1987発行

▼奈良・小川郵便局風景印
ニホンオオカミ終焉の銅像と
高見川と吉野杉を描く。



近現代に残るニホンオオカミの痕跡

今も残るオオカミ信仰

埼玉にはオオカミのお札のある神社が多い



なんでも調査団

多摩地域には玄関先や蔵の入り口に奇妙なお札を貼る農家がある。黒い犬が描かれ、口は大きく耳元まで裂けている。普通の犬とは違った野性味を放っている。お札の謎を探った。

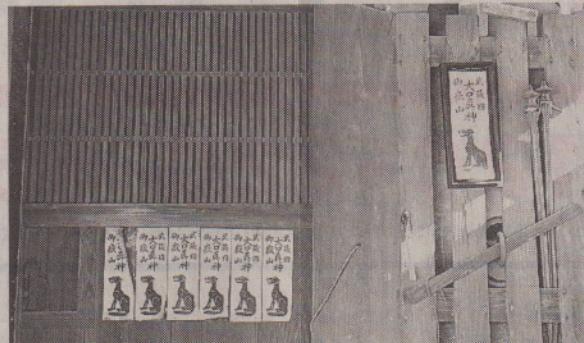
東京都稻城市で日々農業を営む村山壯雄さんの蔵にもそのお札がある。よく読むと「武藏國 大口真神(おおくちまがみ) 御嶽山(みたけさん)」とある。村山さんはこのお札は東京都青梅市の武藏御嶽神社のもので、蔵に貼るのは古くからの習慣だという。

早速、御岳山に行き御師(おし)の須崎裕さんに黒い犬の正体を尋ねた。御師とは神社に参拝す

農家に残るオオカミ信仰

首都圏

作物・財産の守護願う



農家の蔵に「黒い犬」のお札が貼られている(東京都稻城市)

る人の世話役だ。「その犬はオオカミです」と教えてくれた。須崎さんは関東一円で信者の団体である講を受け持ち、新年にお札を配り歩く。多くは農家、または元農家だという。

埼玉県秩父市の三峯神社もオオカミのお札で有名だ。なぜ農家を中心に行きを集めたのか。三峯神社の宮司、中山高嶺さんは「作物を荒らすイノシシ、シカを退治する存在として、江戸時代から信仰が広まった」と説明する。

かつてオオカミは食物連鎖の頂にあった。農家

はその力としたわ
利益も加
般に広ま
木材の流
青梅、
て所蔵す
と骨を削
館には最
後、不定

日本経済新聞 2013年1月8日朝刊 35面

もっと知りたい

○武藏御嶽神社、三峯神社とともに、その神社の「祭神(さいじん)」がオオカミというわけではない。オオカミはあくまで神の使い「眷属(けんぞく)」。代表的な眷属には稲荷神社のキツネ、春日大社のシカ、八幡宮のハト、日吉神社のサルがある。
○お正月の武藏御嶽神社には犬を連れた初詣客が目立つ。犬用の手水、お守りもあるほどだ。周辺には犬と一緒に食事できる店があり、受け入れ態勢を整えている。



調査テーマを募集します。お問い合わせはtihoubu@nex.kk.kel.go.jpまで

まるかじり

はその力にあやかり、お札で大切な作物を守ろうとしたわけだ。その後に盗難よけ、火難よけの御利益も加わり、オオカミは「おひめ様」として一般に広まった。青梅、秩父は木材の産地であり、木材の流通とともに信仰が広まった面もある。

青梅、秩父には今もオオカミの頭骨を宝物として所蔵する家があるという。かつては病気になると骨を削って飲むことであった。青梅市郷土博物館には最近になって市民から頭骨が寄贈され、今後、不定期に公開する予定だ。

お札の数え方は1体、2体だが、オオカミのお札に限っては今も1匹、2匹と数える習慣が残っている。お札は生きたオオカミの代わりなのだ。

武藏御嶽神社が信仰を集めてもう一つの理由がある。毎年1月3日に実施する古代からの占い太占(ふとまに)だ。シカの肩甲骨を焼き、ひび割れ具合から25の農作物の作況を10段階で占う。今年は早稲(わせ)5、ジャガイモ9、大豆2、ネギ10。数字が高いほど豊作だ。種まきが近づく3月になると農家からの問い合わせが増える。

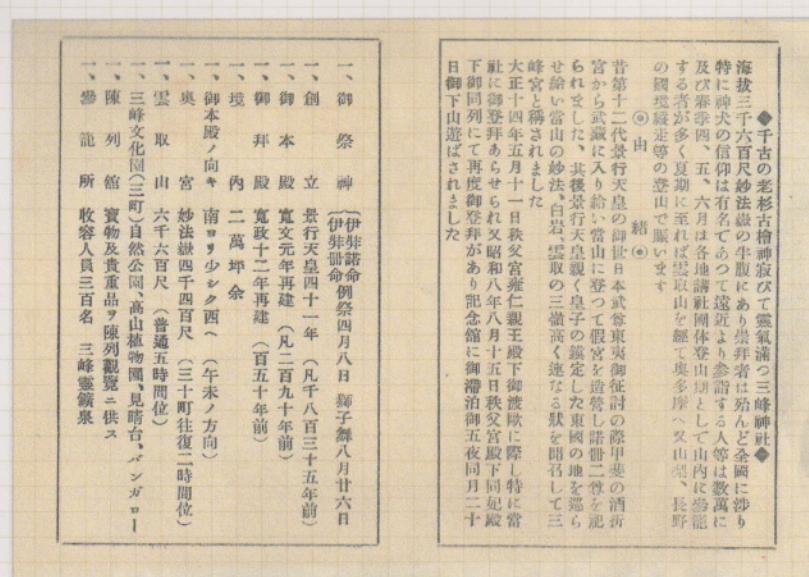
上掲記事のつづき

近現代に残るニホンオオカミの痕跡

三峯神社（埼玉県秩父市）



「國立公園三峯山案内」(戦後 1946~1951頃の刊行物)

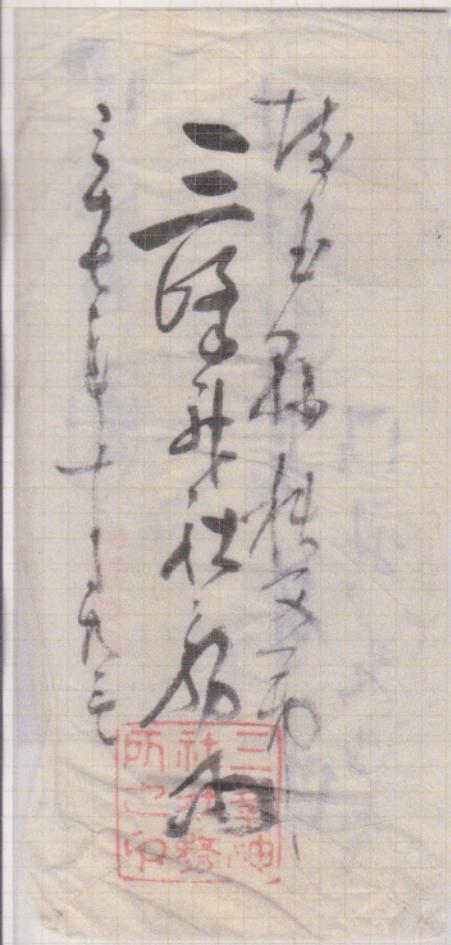
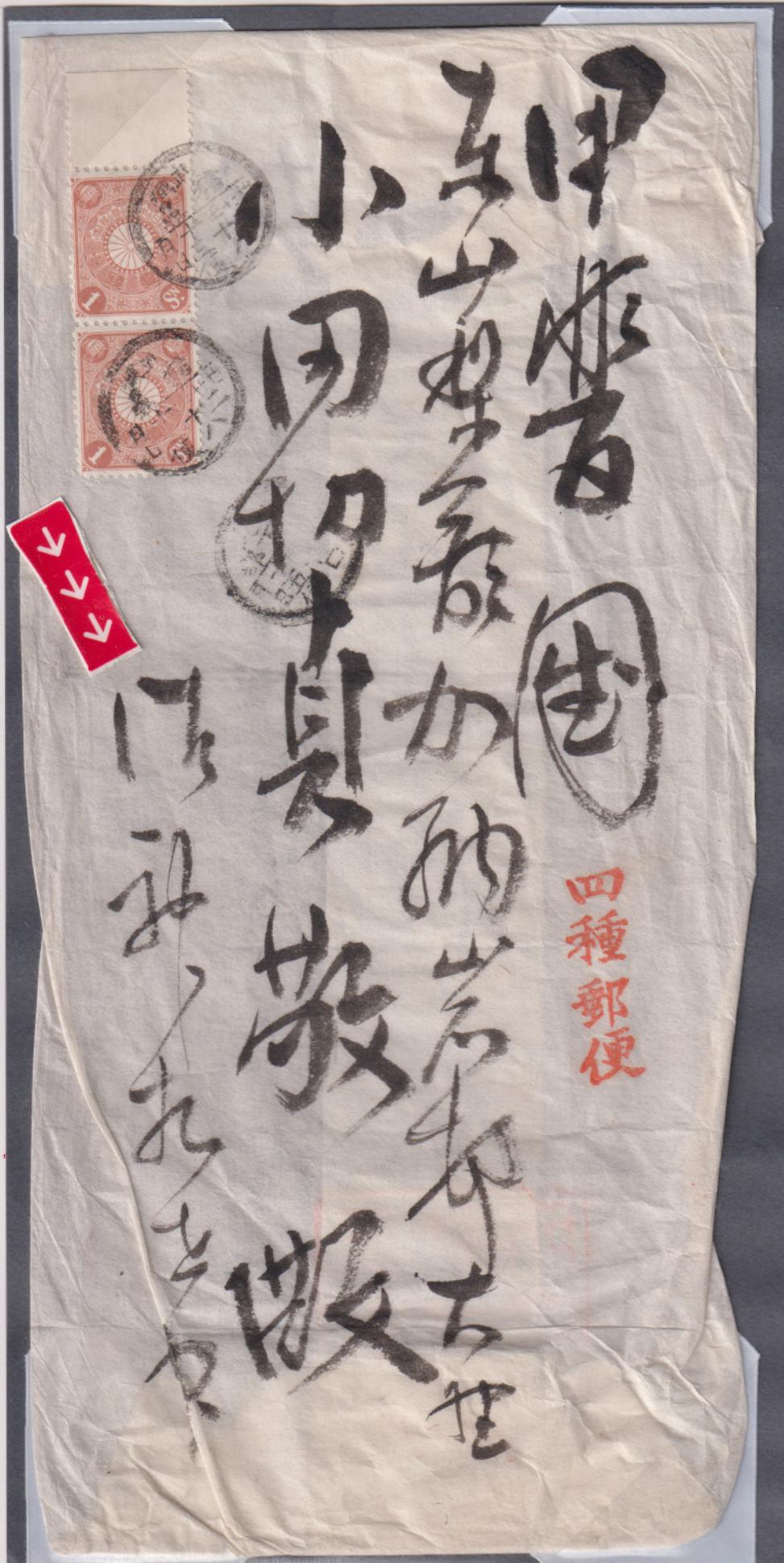


「由緒」

昔第12代景行天皇の御世日本武尊東夷御征討の際甲斐の酒折宮から武藏に入り給い當山に登つて假宮を造營し諾冊二尊を祀られました、其後景行天皇親く皇子の鎮定した東國の地を巡らせ給い當山の妙法、白岩、雲取の三嶺高く連なる状を聞召して三峰宮と称されました

〔「國立公園三峯山案内」より〕
日本武尊を山中で導いたのが白いオオカミとされる。秩父山地一帯ではオオカミを祀る神社が20社を超える。

三峯神社社務所差立 御神ノ札在中



武藏・猪鼻
明治 37.10.20
第四種郵便 開封

「御神ノ札在中」

差立: 埼玉県秩父市三峰神社
社務所
宛先: 甲斐国東山梨郡
加納岩村大野 小田切貞敬
(秩父から雁坂峠越の秩父
往還の村)

宝登山神社（埼玉県秩父郡長瀬町）



寶登山神社御守護
(御札)

宝登山神社奥社
オオカミの狛犬



(左)



(右)

2003年12月22日撮影

近現代に残るニホンオオカミの痕跡

武藏御嶽神社 大口眞神 (東京都青梅市)

武藏御嶽神社

東京都青梅市御岳山 176 番地

御祭神：櫛眞智命、大己貴命、少彦名命

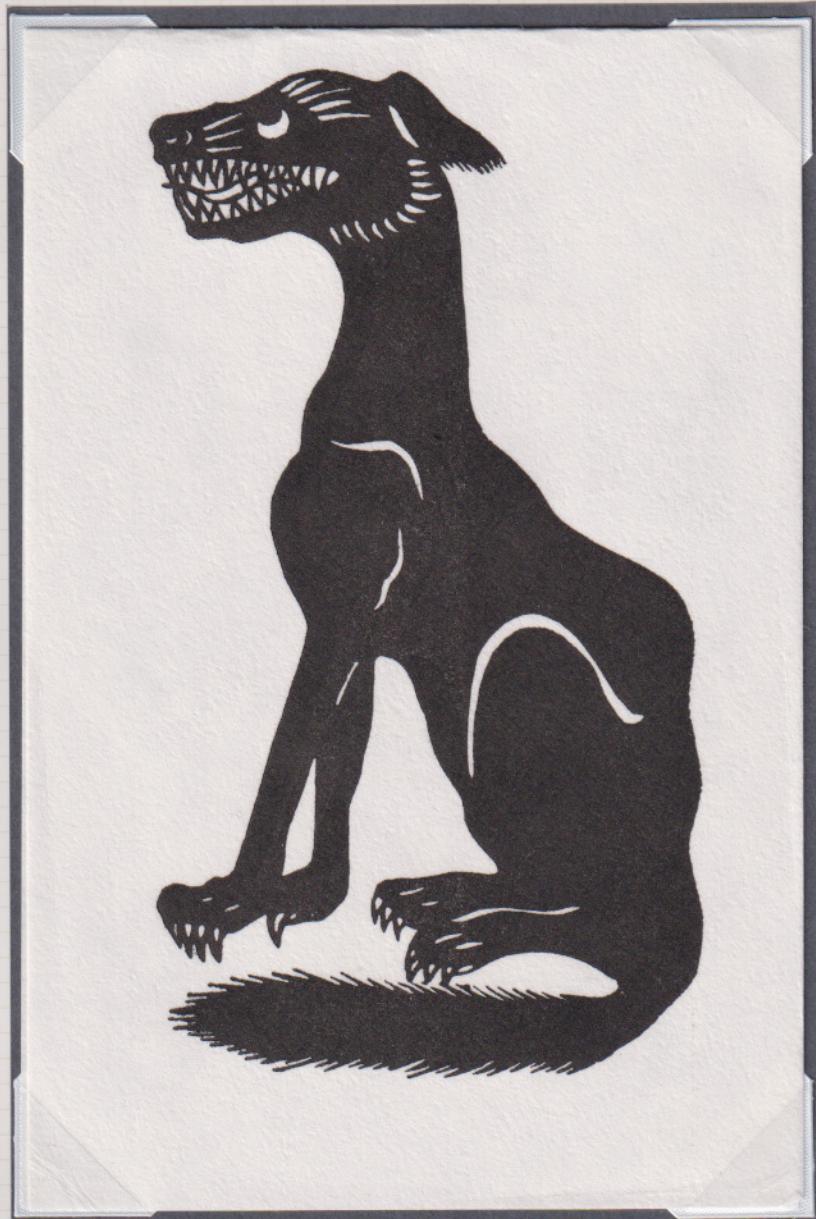
廣國押武金日命

奥宮：日本武尊、御眷属大口眞神

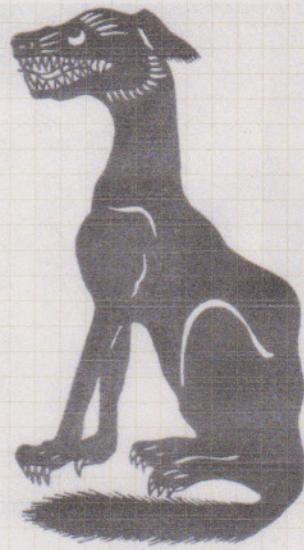
「日本武尊御東征のみぎり、この地で難を狼により
救われたといわれ、以来神社の守しめとして多くの
人々の崇敬を集めております。」

(武藏御嶽神社御由緒 より)

『武藏御嶽神社』武藏御嶽神社社務所発行)



武藏御嶽大口眞神



▲全体像 縮小
たて 316mm ×
横 105mm

◀御札 下半部

近現代に残るニホンオオカミの痕跡

山津見神社 狼の天井絵（福島県飯館村）

よみがえる
オオカミ

いいたて やまつみ
飯館村山津見神社
復元天井絵 展

2016年 5月28日(土)
- 7月3日(日)

開館時間：9:30-17:00（入館は 16:30まで）

休館日：毎週月曜日

観覧料：一般・大学生 270円
(20名以上団体 210円)

高校生以下無料

主催：福島県立美術館

共催：山津見神社／和歌山大学観光学部・国際観光学研究センター
／東京藝術大学／認定NPO法人ふくしま再生の会

後援：飯館村

助成：一般財団法人地域創造

※この復元プロジェクトは、三井物産
環境基金の助成をいただいています。



本事業は宝くじ収益
の助成を受けています



近現代に残るニホンオオカミの痕跡

三朝温泉「白狼」伝説（鳥取県）



鳥取三朝温泉

26.3.19

三朝温泉名物・
河原露天風呂の
三朝橋と伝説の
白狼

850 年の昔、
大久保左馬之祐
という侍が、年老
いた白い狼を弓
で射ようとした
が思いとどまる。

その夜、左馬之
祐の夢に妙見大
菩薩が現れて、白
狼を助けた御礼
に温泉の場所を
教えてくれたと
いう伝説がある。

駒ヶ根「早太郎」伝説（長野県）



駒ヶ根郵便局 風景印 平成 7.7.7 初日印 / 旧 風景印 平成 7.7.6 最終印

(光前寺と早太郎と駒ヶ岳) / (駒ヶ岳と簡保キャンプ場にロープウェイと早太郎)

旧印初日は 1981.8.1。新印は 1995 年。この 14 年間に「早太郎」は存在が大きくなつた。



信州の駒ヶ根と遠州（静岡県）の見付村に伝わる、人身御供の娘を取って食らう老ヒビ（魔もの）を退治したヤマイヌ、靈犬「早太郎」（遠州では「悉平太郎」；しっぺいたろう）の伝説である。

駒ヶ根の光前寺（同市赤穂にある天台宗の別格本山。）で飼っていた「早太郎」（寺の床下で産まれたヤマイヌの子のうちの1頭）を、老ヒビを退治するため、遠州磐田見附村に貸し出した。早太郎は、見事、老ヒビを退治したが、老ヒビとの戦いで傷ついて、光前寺に辿り着くと、一声高く吠えると息絶えた。光前寺では早太郎を本堂横に手厚く葬り、墓は現在も存在する。

この伝説は「猿神退治」として、「まんが日本昔ばなし」でアニメ化された。（1976.7.31 放送）

遠州見附村は、現在の静岡県磐田市見付。伝説が縁となり、1967（昭和42）年から駒ヶ根市と磐田市は、友好都市となった。見附の見付天神社には悉平太郎の銅像が建っている。

この靈犬「早太郎」はもともと地元では「はいぼう太郎」と呼ばれていたようで、「はいぼう」とは、「灰色をした坊（コドモなどに用いられる愛称「～坊」から）」という意味である。

この毛色と、人を獣害より守るという事から、ヤマイヌ「早太郎」はニホンオオカミだったといわれる。（実際ニホンオオカミは鹿や猪を捕るため、農民にとっては穀類を守ってくれる有り難い存在だった。）

栗栖健著『日本人とオオカミ—世界でも特異なその関係と歴史』などから

フレーム切手 「磐田市・駒ヶ根市 友好都市50周年記念」 2017年8月25日発行（1000部）



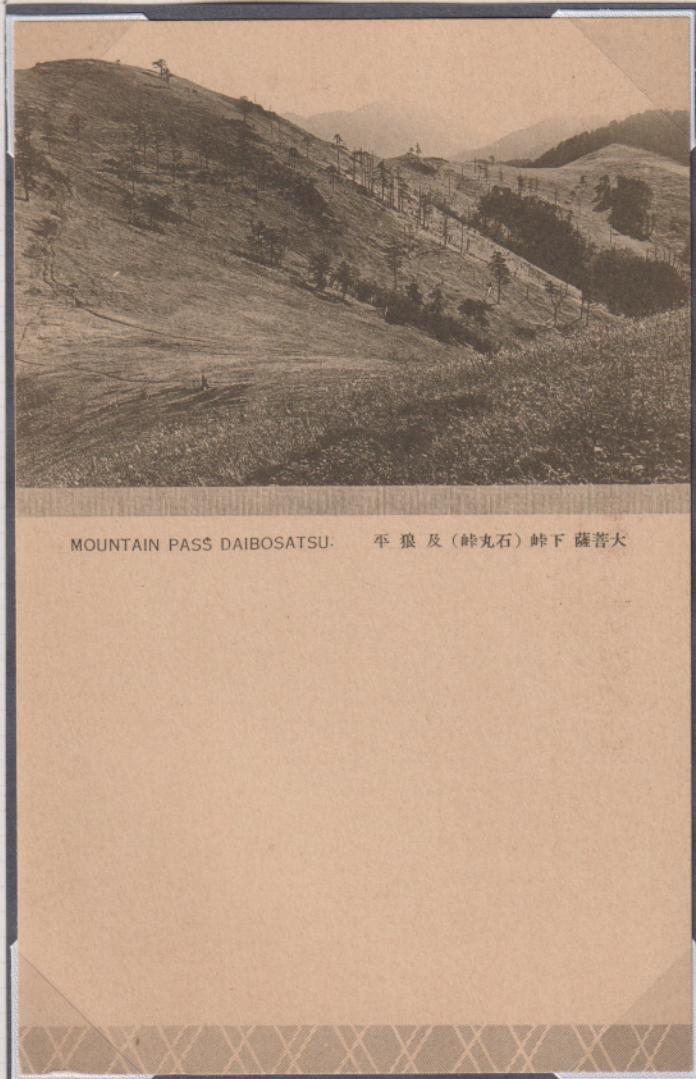
近現代に残るニホンオオカミの痕跡

名前に残るオオカミ 「狼」姓



狼 嘉彰氏（おおかみ よしあき：1939～） 東工大名誉教授、元宇宙開発事業団技術研究本部研究総監
「狼」姓：全国でおよそ100人。「現千葉県北部である下総起源とも言われる」（苗字由来netによる）

地名に残るオオカミ「大菩薩峠 狼平」



MOUNTAIN PASS DAIBOSATSU: 平 狼 及 (峠丸石) 峠下 菩薩大

絵葉書（戦前 山彦会発行）
大菩薩 下峠（石丸峠）及 狼平

大菩薩 狼平は、明るく開けた峠の原で、展望もあり、気持ちの良い所。大菩薩峠 1897mから熊沢山 1978mへ、さらに石丸峠 1910mから、20分前後。

なお、お隣の奥多摩にも「狼平」がある。

雲取山 2017mから飛龍山 2077mに向かう道の途中、雲取山頂から三条ダルミ 1824mへ下り、ゆるく登り返すとやがて狼平。

「狼」の地名の語源には、

- ・狼---オオカミ *Canis Lupus* に由来する。[狼]
 - ・上方のこと。[大上]
 - ・大いなる神。[大神]
- などがあるようだ。

当て字の可能性があり、必ずしも、狼がいたから、狼に由来すると断定できない。

「狼」のつく地名

「狼地名コレクション」<https://uub.jp/nam/wolf.html>によれば、北は青森県から南は宮崎県まで、約120の「狼」のつく地名があるそうである。

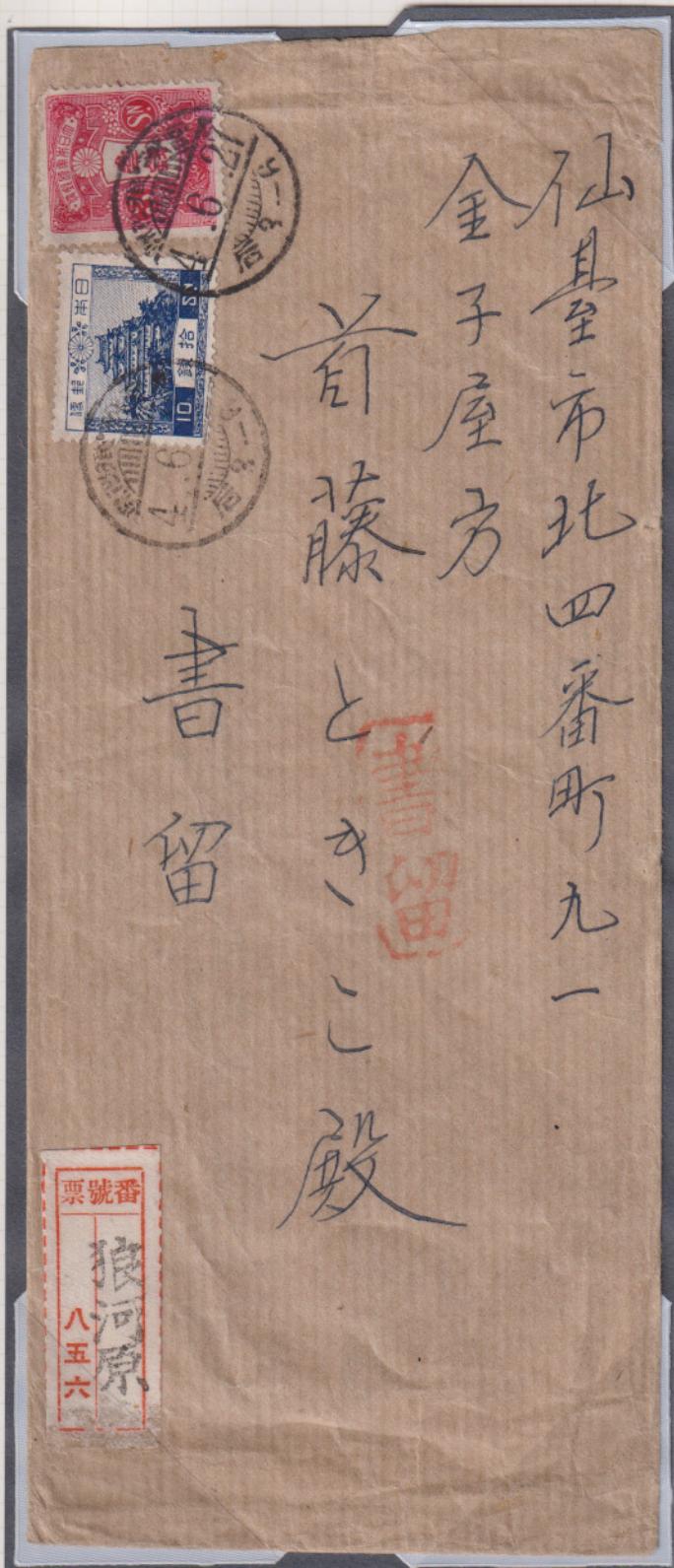
多いのは東北地方で、青森県14、岩手県17、宮城県16、秋田県14、福島県20、などである。因みに、青森県では、狼森（おいのもり）、狼ノ平（おいのひら）、狼走（おいのばしり）、狼穴（おかみあな）、狼久保（おかみくぼ）、狼森（おいのもり）、狼森澤（おいのもりさわ）、狼野長根（おいのながね）、狼沢（おかみさわ）、狼ノ沢（おいのさわ）、狼丁（おいのちょう）、狼久保（おかみくぼ）、狼子沢（おいのこざわ）、狼久保（おかみくぼ）等の地名がある。

国立国会図書館レファレンス協同データベース 管理番号 岩手-305

https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000228732では、『狼 その生態と歴史』平岩米吉//著 動物文学会//発行 1981年 p.161「三 狼害と狼という地名」に “狼が多い地方では、そのよい面があらわれると、狼を祀る神社ができ、また、悪い方面が目立つと、狼という名のつく地名になって残る。だいたい、関東から中部地方では神社ができ、東北（奥羽）では狼という地名がたくさん残った。”との記述が紹介されている。

近現代に残るニホンオオカミの痕跡

地名に残るオオカミ「狼河原郵便局」



宮城・狼河原 昭和 4.6.27

后 3-6 書留

(ヨミ：おいのかわら)

着印：仙台 --.6.28 后 0-9

差立：岩手県東磐井郡大津保村大

宛先：仙台市北四番町

狼河原郵便局の沿革（登米郡米川村）

明治 7.12.26 設置 郵便取扱所

明治 8.1.1 五等郵便局に改定

明治 9.5.-- 「米川」と改称

明治 13.2.-- 「狼河原」と改称

明治 19.4.26 三等郵便局に改定

昭和 8.4.1 「米川」に再び改称

明治 7.12.26～明治 9.5.- 狼河原郵便局

明治 13.2.～昭和 8.3.31 狼河原郵便局

狼河原村：

明治 8 年 10 月 17 日 - 水沢県による村落統合にともない、宮城県登米郡狼河原村（おいのがわらむら）と鰐淵村が合併して米川村が成立。明治 12 年 - 米川村を狼河原村と鰐淵村に分割。

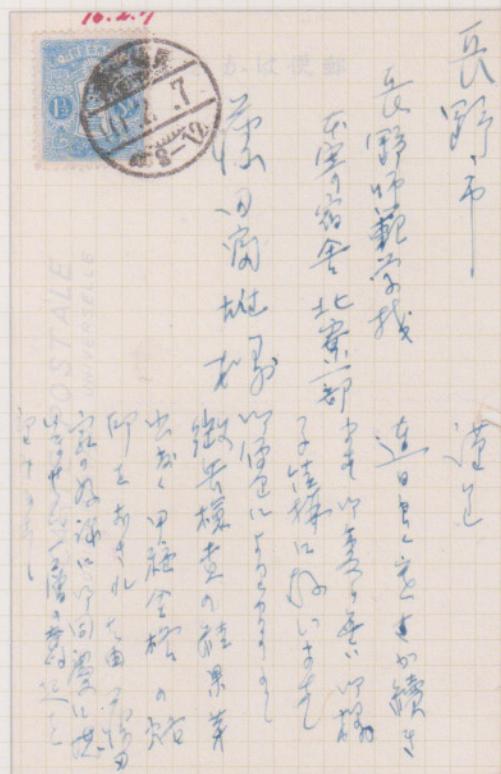
明治 22 年 4 月 1 日 - 町村制施行にともない、狼河原村と鰐淵村が再合併して新制の米川村が発足。

昭和 31 年 9 月 30 日 - 錦織村と合併し、日高村となる。

変遷を経て現在「登米（とめ）市」となった。これにより、登米郡は消滅。

狼河原 地名の由来：その昔、囲碁の対局が原因で殺された一閑の侍米川外記の子が、この地で仇を発見し、三峰の神の化身である白狼の助けを受けて仇討を果たした。以来、河原村と称していたこの村名を「狼河原」に改称したとも。

オオカミのDNA? 川上犬(長野県南佐久郡)



長野〇〇 10.2.7 前 8-12

裏面:

これは佐久の北海道と云われる南佐久郡川上村の産日本犬です この村も 小海北線の開通に依りすっかり鉄道文化に恵まれ一躍文化農村の感があります 今夏は甲州まで全通する筈ですが当地佐久もどうやら人並みらしい文化の風を 受けるようになります

川上犬(かわかみいぬ):

最もニホンオオカミに似ているといわれることがある。長野県南佐久郡川上村に伝わる。川上村では獵犬として使った。別名「信州川上犬」、「川上狼犬」、等ともいわれる。昭和の初めには「梓山犬」ともいった。

「秩父犬」と同様(梓山地区から奥秩父の山、三国峠を越えると秩父市)、ニホンオオカミの血が流れているという伝承がある。獵犬としての勇猛さを獲得させるため、雌犬を山中に留め置いて、山中のオオカミと交配させたとも伝わる。

戦後は川上犬の頭数が減少し、他種と交雑で純血種としては絶滅の危機に陥った。1968年に、純血性が薄れたとし長野県天然記念物の指定を解除。その後、戻し交配などに取組み、1982年に純血性が高まったとして、再び県の天然記念物に指定された。

現在でも、川上村内でも数十頭、全国でも300頭前後しかいないとされる。

近現代に残るニホンオオカミの痕跡

オオカミのDNA? 甲斐犬(山梨県南アルプス市等)



DOG-DATA



英語表記 Kai Ken
原産国 日本
高 43cm ~ 56cm
重 12kg ~ 18kg

性格

現役の獵犬として働く個体もあり、愛玩犬化が好まれず、気性の強さも大切な要素として繁殖されている犬です。

状況に敏感で見知らぬ人や犬、ほかの動物には警戒心を見せますが、信頼し尊敬する飼い主に対しては別犬のように甘えん坊で従順な面を見せます。

飼い方

気性が強い上に、ただひとりの主人に生涯仕えようとする「一代一主」の典型的な犬です。長く共に暮らしてから他人に譲渡することになった場合、新しい飼い主に馴染むのが大変難しい場合が多くあります。飼う人の年齢や体力、犬の飼育経験を十分に検討した上で迎えるようにしましょう。

頑健な体は、岩山を踏みしめて駆けイノシシなどの大きく強い獣を追い詰めるために選択繁殖してきたものです。



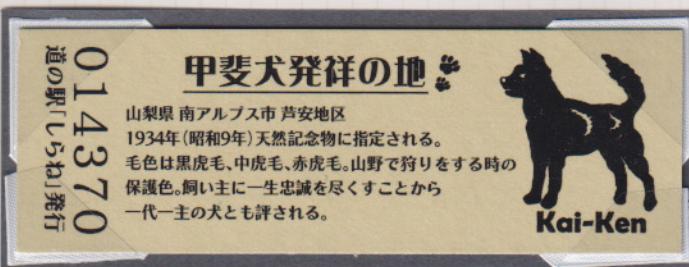
©2019 MoveOn Inc.

国立科学博物館「伴侶としての犬」(甲斐犬・樺太犬ジロ・秋田犬ハチの剥製)

昭和4(1929)年に甲府地検に赴任した安達太助が発見し、昭和6年に「甲斐日本犬愛護会」を創立。昭和7年日本犬保存会斎藤弘吉会長等が中巨摩郡芦安村(現南アルプス市)や奈良田村(後の西山村、現南巨摩郡早川町)に飼われていた虎毛、立耳の地犬を調査し、「甲斐犬(かいけん)」と命名、保存活動を開始し、昭和9年、天然記念物に指定。

通常、日本犬名は「〇〇犬(いぬ)」という呼称になるが、同様に呼称すると「かいいぬ」となって、「飼い犬(かいいぬ)」と誤解される可能性があるため、「かいけん」となった。

芦安は、南アルプスへの登山基地 広河原への入り口、また、鳳凰三山への登山口となる。かつての登山者の中には、芦安で甲斐犬に吠えられた人も多かった。



道の駅「しらね」発行 記念きっぷ

甲斐犬発祥之地 芦安地区

売価 180円

道の駅「しらね」:

山梨県南アルプス市在家塚 595-1